

911.1
5

寢覺

崎津泊
門凌濛礪
岬嶺夜岸
湖龜

五



○ 島



と一 いのと一 一ち 三一

藝

いて 一 漢 一 海 一 著

の一

宿
伊勢

いづみ

島

古今
事

かく

兼定王

島

島

島

島

島

島

島

島

島

島

島

島

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

島

集
政

かく

ノ 離れまくら

田 田 田 田

田

田

五 一 うの麻とをとの木とまきわひとうはよゑもひくます
津庵 緑 松 千鳥 漆 いりや貝 こなみの波 りん磯の巻

とよさか門後合

あめき
伊豆
いの身
下総庵
いの身
月 千鳥 国屋内里

朝勅

伊香湖

書店

出

て

ゆ

・

・

・

・

朝勅

伊香湖

書店

出

て

ゆ

・

・

・

・

常陸 伊香湖
のうそりゆ
出
てゆ
書店
出
てゆ
・

朝勅

伊香湖

書店

出

て

ゆ

・

・

・

・

伊勢 枝
逸翁 箱
とく鳴 松
ねとく鳴
尾張 皇
はー傳 遠山直
藤 富鴻
さーほり鳴 ものの身 箱
金
松 事 政 交
政 路鴻 箱合

金
風をからぬり音と清らかに波ひきうちより
とく鳴 ものの身 箱
金
松 事 政 交
政 路鴻 箱合

吉本方

小豆

千鳥

月

鶴

者

轡

半布

千鳥

月

鶴

者

不老

卷之三

莫雀鳴
子國之鳴

松原やをく海の水を度半身をあわせへ
韓田 月 異音

名
新
江
入
東
車
身
之
也

同
神
ウミ嶋
島嶋

・おおきな鳥の鳴き声が聞こえて、その音色がとても美しい。鳥の鳴き声は、この鳥の鳴き声が最も美しい。

うすの夢 里の浦 と 関

卷之四

廣市鴻
の海の海 いづらの海 一月 本万

・ おとづれの事は、彼のねり

・アラカニの夢なるべくはをゆ
万主

卷之三

うるま
身節
万
の鳴
たかのすみ

うひや。御子をうながす。清溝がくつて在り
す。猪。名号。

十 横
もとをうつてはまくをたててあ

立石 立石
夕胡 夕胡

浦 福浦 海 日

人此の所これぞれはよ都にまかんとあつてひらや
高暮 高暮 ま木
たひこの傍 木の傍のひきびらむじてけくあからめくひこ乃寄
尾 連雲尾
つむの海 一幸山海 さくさんかみをもとて瀧風をそめんつかのゆへり
日後 三日 おも
みのひの海 おもねのひの海よほまの海をばのむりやあくし
持 かうはの海 あけのまわみ 浦 福浦 沖 日に日 海 日
潟 日 濱 日 渡 日 通 日 里 日 都 日 宮 日 ま

日東北
武庫 武庫
じとう海 ふる島浦 日 渡 日 川 日 海 日 に 日 濱 日

五代
東方略々の海とゆづらじとく海日とそみの島のちく
要時々の海とゆづらじとく海日とそみの島のちく

安房野海

建名

ち

千鳥 游

み

漁

の海うち

波動水

名

車

の

一

熟

葦

ち

秋

千鳥 游

み

漁

波

流

漁

千載

あすら

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

路

近い内を

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

同

近い内を

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

湖

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

千載

あすら

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

虎

あすら

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

千載

あすら

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

虎

あすら

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

虎

あすら

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

虎

あすら

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

波

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

曾

浦

浦

浦

浦

浦

浦

浦

浦

浦

浦

浦

浦

浦

浦

浦

前也良の夢

互入

沖は浮鷺とつまみがくとへやに鳴りともかく告を

藤

互入

やう愛おのひゆう松今まるせうみ日ひもし浦

小鷦

互入

こへぬあうたちの古夜ゆき月名身

ま

互入

玉枕

互入

八十人

互入

宇治橋琴名隈立衣の

ま

互入

小松

互入

衣古社毛教所

樟

互入

こまく鳴

互入

伊原

互入

衣のあうあう候よそれづのと浦わまづりあ

樟

互入

こまく鳴

互入

衣のあうあう候よそれづのと浦わまづりあ

秦 三輪

古 老 ふらり 桜葉 日 嵐川 日 田 日

老 あひすも降らぬうえつ皆さのりてはありわざくに

始見

老 うちの鳴 石 畦をちかづり

木 仄小もみそらの鳴れ花をよほりをかかせてかま

岸 三津

木 そりの鳴 浦 畦を

木 仄小もみそらの鳴れ花をよほりをかかせてかま

芭翁といふらの浦乃ち信もまゆぢやあつと社だけ
芭翁 田石
あいの浦 浦 有道・門日・沖日・深日
芭翁(三津) 二度と空とひ出でやまをす東北あつれ浦からくも
芭翁(万) 太陽のア・雲・松原 萩翁 信山後谷淳喜浦日
芭翁(萬葉) 林の葉は彼の氣く太陽の浦の松原は芭翁
芭翁(萬葉) かの浦 田原あそぶらひも漂出なりひの浦芭翁
芭翁(萬葉) かの浦 田原あそぶらひも漂出なりひの浦芭翁

・清潔の心・達者・被り物

三

卷之二

あさる

點万
以万

万三

万三
紀伊由良
のと藩主・晴日舟
長里

○
波

をくらべて強ひ叶ひ

萬
萬

卷之三

卷之三

後編
稻葉

稻系

卷之三

卷之三

七

۷۳

名
いとせの後・五月・月・も・よ 宮山山集会
あじの家原の後・小舟まく、おはすいとが月を
岸小田をさへ後 里を築く

わづの月よおまく出でてとみの月にかき
賀筆かこの後 沈よやくせむかびのとおはしわれはわづから
拂賀右うこ乃後 来本おちてかの後より経の糸糸のまをさすと
は本かの後 里を築く 本日
かの後 里を築く 本日

筆香雅かの後 沈を築く 本日
淀本あまとう津はたとひがめがのとまつて活く
よの後 川を築く 沈・所・里・入・江・宿を築く

淀本あまとう津はたとひがめがのとまつて活く
よの後 川を築く 沈・所・里・入・江・宿を築く

松と
筆具袖
松との後・あられ 天本流るる
みらの社神ノモリのやまと川のまづられてそとを
尾張津島作本まつら えとひのまつらと無れやはの後風
対馬大アマハ・おのの翁去 筵
おおまき こうじのまつらはの後はわりひのみ様おおまきりふ
筆武庫出羽追門ひこ乃後 ふきわ 川口 海口 沈本崎日
萬古本おもるとひとひもまつらて、たはくへ日の流れひあそとそとを
しわげのやと はまよほみかまわやとのゆよわ
宇治本うしの後 川を築く 本日 桃日 ふ日 畠を川乃

名
毛澤宇留馬
松葉
八毛川
人毛
我妻

卷之三

卷之三

山
升半
のその波

川橋 游月山田月里月中遊月玉水月

標示
姓名
力の後

海鷗。藩。日。川。日。山。日。序。日。魚。日。

因方
大鷦

のやうやくそうのタマト
後式体がへまつまつ

舊
之
之
之

一
本
改
稿

和山遊
やまとゆき

八
金
以
後
撰
組
字
之
行

10

卷

卷之三

文書

川
文
獻

卷之二

川家の

八枚
の後

鶴鳴川口

卷之九

大宝（萬葉抄）の御事（御事）の後と云ふ事ある。

本津

桃川

後 指 一ノ内乃後 小 あら山作 ひがし里口 浪日 阳日

禁

落葉 昆陽

行

四府 の後

行

同 二ノ内

行

同 三ノ内

行

同 四ノ内

行

同 五ノ内

行

同 六ノ内

行

同 七ノ内

行

同 八ノ内

行

同 九ノ内

行

同 十ノ内

行

同 十一ノ内

行

同 十二ノ内

行

同 十三ノ内

行

同 十四ノ内

行

同 十五ノ内

行

同 十六ノ内

行

同 十七ノ内

行

同 十八ノ内

行

同 十九ノ内

行

同 二十ノ内

行

同 二十一ノ内

行

同 二十二ノ内

行

同 二十三ノ内

行

同 二十四ノ内

行

同 二十五ノ内

行

同 二十六ノ内

行

同 二十七ノ内

行

同 二十八ノ内

行

同 二十九ノ内

行

同 三十ノ内

行

同 三十一ノ内

行

同 三十二ノ内

行

同 三十三ノ内

行

同 三十四ノ内

行

同 三十五ノ内

行

同 三十六ノ内

行

同 三十七ノ内

行

同 三十八ノ内

行

同 三十九ノ内

行

同 四十ノ内

行

同 四十一ノ内

行

同 四十二ノ内

行

同 四十三ノ内

行

同 四十四ノ内

行

同 四十五ノ内

行

同 四十六ノ内

行

同 四十七ノ内

行

同 四十八ノ内

行

同 四十九ノ内

行

同 五十ノ内

行

同 五十一ノ内

行

同 五十二ノ内

行

同 五十三ノ内

行

同 五十四ノ内

行

同 五十五ノ内

行

同 五十六ノ内

行

同 五十七ノ内

行

同 五十八ノ内

行

同 五十九ノ内

行

同 六十ノ内

行

同 六十一ノ内

行

同 六十二ノ内

行

同 六十三ノ内

行

同 六十四ノ内

行

同 六十五ノ内

行

同 六十六ノ内

行

同 六十七ノ内

行

同 六十八ノ内

行

同 六十九ノ内

行

同 七十ノ内

行

同 七十一ノ内

行

同 七十二ノ内

行

同 七十三ノ内

行

同 七十四ノ内

行

同 七十五ノ内

行

同 七十六ノ内

行

同 七十七ノ内

行

同 七十八ノ内

行

同 七十九ノ内

行

同 八十ノ内

行

同 八十一ノ内

行

同 八十二ノ内

行

同 八十三ノ内

行

同 八十四ノ内

行

同 八十五ノ内

行

同 八十六ノ内

行

同 八十七ノ内

行

同 八十八ノ内

行

同 八十九ノ内

行

同 九十ノ内

行

同 一百ノ内

行

同 一百一ノ内

行

同 一百二ノ内

行

同 一百三ノ内

行

同 一百四ノ内

行

同 一百五ノ内

行

同 一百六ノ内

行

同 一百七ノ内

行

同 一百八ノ内

行

同 一百九ノ内

行

同 一百十ノ内

行

同 一百十一ノ内

行

同 一百十二ノ内

行

同 一百十三ノ内

行

同 一百四ノ内

行

同 一百五ノ内

行

同 一百六ノ内

行

同 一百七ノ内

行

同 一百八ノ内

行

同 一百九ノ内

行

同 一百十ノ内

行

同 一百十一ノ内

行

同 一百十二ノ内

行

同 一百十三ノ内

行

同 一百四ノ内

行

同 一百五ノ内

行

同 一百六ノ内

行

同 一百七ノ内

行

同 一百八ノ内

行

同 一百九ノ内

行

同 一百十ノ内

行

同 一百十一ノ内

行

同 一百十二ノ内

行

同 一百十三ノ内

行

同 一百四ノ内

行

同 一百五ノ内

行

同 一百六ノ内

行

同 一百七ノ内

行

同 一百八ノ内

行

同 一百九ノ内

行

同 一百十ノ内

行

同 一百十一ノ内

行

同 一百十二ノ内

行

同 一百十三ノ内

行

同 一百四ノ内

行

同 一百五ノ内

行

同 一百六ノ内

行

同 一百七ノ内</

月音
兩
國之也
子之也
里之也
川之也
歲之也

森
七浦
正
アリヤの後
カナシハハト後リ・キム・ヒミ
六
瓦
音名

死川七次乃後は佐馬色の丸に之を以て居候る所也

同上

まうお士郎の後へともしも我がよほとおもひ
金木
被我伯翁

大和・六田の事
あやめのやまとひで七瀬の渡とをも
若狭・秋葉・川仰・柳原・名水・風
・弟・秋葉・川仰・柳原・名水・風

・宿・橋・川柳・水・君・那
童の歌 童の歌 童の歌 童の歌

廣の命を おきりて、三歳半一歳半の
之間、
後後於後此は二回もよちくしてあわせ織り麻衣うハ

前事より御遺文を送りてお手紙の所

This image shows a vertical strip of aged, yellowish-brown paper. The paper exhibits significant water damage, characterized by large, irregular holes and areas of discoloration and staining. The texture of the paper is visible, and the edges appear slightly worn.

井の後 痛
病氣の爲めに思て井の後よ引ておけり

今もかくかくとひきぬけたのとけうつむ
至

卷之三

○
穢

このゆうべの夜は、さすがに寒い。でも、やがて、このゆうべの夜を

今更に松の木をうながすれども一枝を残さず

、在彼海川池湖之水也。其餘之水也。是八

入江一 一高橋一 桜 一左木一

わく やま 一波 一乃 一菜 一ノモ
山本店 一ノモの屋 桜の屋 一ノモの屋

一のいわや トロきくれ 高 わくま 共 くわんがくわく
一のいわや トロきくれ 高 わくま 共 くわんがくわく

一三 仁の 一松 沢山 ひこのふすま

さつじ 万 わく 仲のや あくは ゆき

の原より お いのまこ ひからへ お松

わくさうらそへ 桂らゆうと

事功 美ほの 鳥集
・とこくの 子 鳥川の室よのめのとくにあらわすとくみ

鷹は 富鷹

こうはう子・あゑ

金糸

・よくもむれ神ノめぐみ秋元やとはう子とすつ白波

丹波 小鳴

とあうの子

鶴波

・ねう浦の子とあわてたむすりに序ふるる

丹波

をくはう子

金糸

・あうきやをくはう子乃よむちおひ衣がよよかの浦の浦人

廣質

同 雄鷹

子ほの

浦 ま

日

同 雄鷹

子ほの

浦 ま

日

同 雄鷹

子ほの

浦 ま

日

・あくもむれ神ノめぐみ秋元やとはう子とすつ白波

丹波

をくはう子

金糸

・いはくもむれ神ノめぐみ秋元やとはう子とすつ白波

丹波

をくはう子

金糸

・かくもむれ神ノめぐみ秋元やとはう子とすつ白波

丹波

をくはう子

金糸

・あくもむれ神ノめぐみ秋元やとはう子とすつ白波

丹波

をくはう子

金糸

・あくもむれ神ノめぐみ秋元やとはう子とすつ白波

丹波

をくはう子

金糸

・あくもむれ神ノめぐみ秋元やとはう子とすつ白波

五七
のらんと画てあうやひ球の海のもの海も入ります
ゆき
指出
さうての体 ほのか
浪のすゝ 伸のせーと

出でての森 佐の木一 島の子一 沢の桂一
つまう 烏賀月 今古 千鳥 鳴松 音 蟻の約束

卷之三

卷之三

古今
卷之六

卷之二

覓小竹山さくを廻の旅

卷之三

万
三度

みくらの林 佐勢の海アシマツノシマ

記伊 白神 万

草
洪谷
ちゆくの秋
・済
嘉
月

10

卷之三

万七
萬
志留喜
万
不
四
日
之
喜

ま本
ラル本とあるの紙もまた紙すらある時代は氣ムカシ

陰奥 桜寵
志麻の秋 月 吉翁 浦
新
あり

後路
鴻
急
浦
急
鴻
日
晴
日

千載
小猿ちどりをけられ道よもづれにてはく夜よ月よすみのま
未劫此度我多

○
冲

神經學

春の風物 一月物

名
・ 濱名川入波をひたひせりてはすれ神ハルニシ
・ 振振
津亭
・ まゆりの神 岩瀬浦 宮日神
千載
・ けりくとまゆりの神を溝引へ岩乃まゆり身を高め
難波
・ あやその神 滨名島 滨日道日里都 海日浦月

西國
鳴門の沖 浦 カウ

佐半哉

カウ

地神社

社

カウ

・いふをとむに鳴門の沖つ波をしてよくもあらぬ 恒紙 平望

尾張
お見 さうみの沖 海をなはぶれまを捨てらるの沖つ波をせ

尾張
諸名野

カウ

カウ

かみの沖

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

・かみの沖

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

・かみの沖

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

・かみの沖

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

・かみの沖

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

カウ

肥前
松浦

カウ

佐賀
伊万里

カウ

佐賀
伊万里

カウ

佐賀
伊万里

カウ

佐賀
伊万里

カウ

佐賀
伊万里

カウ

佐賀
伊万里

カウ

佐賀
伊万里

カウ

志契の沖

湖水也

好

あれ沖やいはくとモガのなまうんほづり出れ有るの月

佐良

志の沖 浦立也

好

あれ沖やかとしよつまち怪まれ沖とくみのをもひ声

佐良

志の沖 浦立也

好

○ 潮

いもじに潮 ねあとう いもじ 水潮 めを潮 金

いもじの潮 潮乃あとう わゆす潮

碧

流潮

建

潮の石

旅宿今

青の潮

花の潮

旅宿今

潮

水のあらうと

潮

水のあらうと

潮

水のあらうと

潮

水のあらうと

奈
いもじ
いもじの潮

神南備

いもじの潮

碧

年立る潮

京和

さよの潮

岳

沖田月里

社日神

万六

真入

あつうの潮

大筋

春は

相

馬の潮

本

日立

相

馬の潮

井

日立

相

馬の潮

毛

日立

相

馬の潮

万

日立

相

馬の潮

本

日立

相

馬の潮

万葉集卷之十 河海歌
近麻川に十津川へ出ゆてあらえに歌全集もあれば

○ 岸

岸 カハキ ハグリト ハリヒタ ハシタツモ
カマシタニヒツメ はせの岸 岩れひとも 岩
岸の黒庭 まくとの岸 くろとく岸 全の岸葉
わくとその岸 岩れひとも 岩のすそ 岩れひとも
岩路 岩の波たご路 やまの岸 岩れひとも
岩田 いさみ 川岸にまむけ 岩れひとも あの岸
泣の岸 岩のとぬや 岩の岸 泣の柳
岩のすそよとまきの 泣の岸 岩のすそけ 岩の岸ま
きひづかく 岩の下りり

紀伊 岩代
くわざな 岩代 漢うり・跡・屋上・學・月杜・月・神

内 岩代の岩石根がまうえしとひきと人人からてふとく
立の岸立田 わねむれ黒根の岩立木がまく海立水あらやねまくせの
岸立木の岸立木 けと小草立草まどもぬりほき井立井の傍立の岸
城立木城 さくせ乃岸立木・邊立あり・川立

奈井川の岸立木の多あらぬるひとれの岸立木にあらめく
立の岸立田 いとくの岸立木 川立裏立ふと東立里立の岸立木・道立杜立
立木立木の岸立木の岸立木が林立木かられりすれりすれり流立木の岸立木

立木立木の岸立木・邊立あり・川立

・帝
同

玉川の春は伊豆に行ひぬはへらけり
・さうほどの春

高砂

津守

高砂

浦口

官口

神口

高砂

浪黒

高砂

浦口

良平

御花 義 月 吉

萩 義 菊 吉

梅 義 梅 吉

忘貝 吉 松岩 義 清音 吉 宿草 吉

馨口 松 驚 義 岩 吉 岩 万 木 吉

渡路鴻葉 吉 浦橋 吉 渡 吉 里 吉 に 吉 宿草 吉

・宿の渡船の浪打と人や爰のやひらんがよくもん
・徒の宿の浪打と人や爰のやひらんがよくもん

星 日 宮 日 神 日 其家 吉 浦 吉 渡 吉 里 吉 に 吉 宿草 吉

○ 湖 吉 林杪 吉 みと湖とも湖ともと
・アシよりアシは雖はくもとへ往てくにあらの
酒やうの海とての海ゆ傳やと伝すとへ

・アシよりアシは雖はくもとへ往てくに 吉 うらは
アシの 吉 やかてあ ちかてあ 吉 あや
ぬ海 吉 通て 吉 は半の海吉 まへもはかくらあま
湯汲やう浦 吉 さき波やく後り湖ともと經ては
通て 吉 うらはく後り波吉 ても後てまちり 吉 篠とも
あさの海 吉 やかのめとまき 吉 鳥のあよす
ひかれぬう字吉 すのゆまくら 吉 すの疊吉
うら通て 吉 水のう 吉 すの海 吉 水のうけ通て
・宿泊のうけたる海 吉 はか哉のゆくみ 吉 あだの海
・宿泊のうけたる海 吉 はか哉のゆくみ 吉 あだの海

・宿根ふけ水うけ修つ 吉 せの海とよひ不二の

この乾ひキミドリホリホリトテの海に往法乃
あまみと・あまのめうみロカニテ千余ヶ江原
物多シ・皆乃トモサ・また公・おもねトモサ
演ひテ・物事多・これ又・山田島・吉木舟
が・母・あまの桂木・おまけつるみ・さく太
又貝・おも・うそ・鷺・弓・わらの村・おま
演・酒・やる・千鳥・鷺・あ・たま
ナミの海・あま・あとのてこ・あられ海人・おま
りヤ・委・近・西・トマ・ゆ・沖の面倒・うつみの海
トマク・うつみ・沖の面倒・うつみの海・ひの孫
トマク・うつみ

トマク・うつみ

けか御邊原を京都不丁跡

近江伊香胡具率
いうち乃浦山 脊
素本
・いうちかうとの海よじりよりせひぬくちと人のがくまで
い松 滩 石良
・被瀬と瀬ぬめけとての海半の瀬にてひまく
いだら瀬 故
・ひだら瀬はまにてやせたてひだら瀬すむらをさ
いだら瀬湯 万
・を津大
・さわゆるきとせた浦ひよる波のたゞするもひがせ
とこの浦 万
・を馬・月 千葉
薑
・せきひてねりおお袖のうなの・おお袖のうなのうな
竹生鴨 竹
・ちくや風 竹
・おま・竹・沖乃小舟 千葉
・おま・竹・沖乃小舟 千葉
・おま・竹・沖乃小舟 千葉
・おま・竹・沖乃小舟 千葉

告

千歳
上部

老う代のやすじをくへ。誰かにらひの道はまかからども
わらの浦とも。沖の海の底の水がさうなりての事
辛ちうの月。鹿柳。柳。ほの。秋。秋。秋。秋。秋。秋。

の。弓。月。春。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。

月。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。

日

里田

の浦

日

風

あみ

あみ

あみ

あみ

あみ

あみ

あみ

日

風

あみ

あみ

あみ

あみ

あみ

あみ

あみ

日

藤巻

池

あり

金

志堅

後合

後合

後合

日

香取

の浦

建

万

大

の

の

の

日

河

川

金

金

金

金

金

金

日

金

金

金

金

金

金

金

金

金

金

金

金

金

金

金

金

金

源氏物語

遊

夜中

方

日

三

日

・ひるまでよみうれしたれや
高鳴秋六 沢の浦秋六 岸秋六 氷秋六 松秋六 まく津秋六

さくは もの うら跡秋六 あく川秋六 あくの漆秋六 まく津秋六

浦秋六 うら跡秋六 あく川秋六 あくの漆秋六 まく津秋六

日

浦秋六 うら跡秋六 あく川秋六 あくの漆秋六 まく津秋六

浦秋六 うら跡秋六 あく川秋六 あくの漆秋六 まく津秋六

日

浦秋六 うら跡秋六 あく川秋六 あくの漆秋六 まく津秋六

日
やうの藩 ちうり えり 碓せん 万
・あさのう藩やあひはくわくめとくまもとく
・や一満 ああ おもて種とくらでまよふはくあまくや一満
・山吹 薩摩
・山吹 あひはくわくめとくまもとく
・まくの浦 まくの浦 まくの浦
・松 まくの浦 まくの浦
・浦の浦 まくの浦 まくの浦
・まくの浦 浅入海 まくの浦
・まくの浦 まくの浦

近江
日 月 日
・浦の波濤のうねりはもとよりうねりの浦
、あわらの浦 木舟と。月
水き 溪る浦をわらが通ひある村の浦へまわひづけ
船曲 下立 浦 濱 木舟の、・高麗 建
船屋・堂 横舟・高 舟
松 濱の・車も・からく・よまれ漁火 入舟
は良漁合 あらのてうる 木の海とゆ傳う
多喜 らの汀の水かみより遙かとわれをとつてうる
木本 下立 木の海やひの瀬乃ちト風が無くとも風が吹く
船曲 駆け流の渡・高麗をすまわせかと風ひともおもむく漁火とくら
葉原 木の浦 漁火 すまわせの葉原が島で、葉原の傍面に高麗とくら
やもと乃浦 木の浦か一 桧原一 駆け流の高麗合
矢橋 木の浦 木の浦
川

月 日 曜 鶴 萩浦・廿九日 桜衣・房・妙
・蕙 痞か 鳥・若 氷 ちうり あさき
・君と 戸・三・門のうなぎ 鮎がてんむし
・汀・春夢後答 ひ良 いにまつ・まめくわら
渡の後とと傳う

魚の浦と瀧山とみれとよはやひのまねよ月とすまね
松賀江 通康

あくえん器・あまと瀧山とみれははくゆく瀧を瀧るねの花
舟本 有美

あむたの候・川瀬やあまは瀧の林うちとみとうなとひうとれん
観見 信中

うくわく湯・あまの花の香草とてうるをよ(うするをと
このくわ湯 千秋 画房

このくわ浦・と浦のまよな方おと障よこのくわの名とまくすれん
小松 お葉

こまく り湾 佐

月 日 曜 月 日 曜

里^日・客^日・原^日・二尾乃^日・产^日候合

旅宿
子内ておねうどりてゐをあく・子世のうみをうづふ
得名津 来本
えみの海 わらのとまつゆのかでそえみの海へ進く三ヶ弓
阿波 万九
あとの瀬 ちのの・日 沖津後谷 美浦 日 あもと日
足利 万九
あとの浦 海 沖のちの瀬・えりを 以日
あとの沖 ちの後谷・あとの瀬 こうのみ日
万九
あとの瀬の海と唐まで船はとう浦今う行さん
朝妻 万九
あとのま 府・行と橋・君・冰 あまま・後
志賀 佐倉 万九
若狭 ふ
旅宿
おつるは吹せやれ船をなむみがわすらん
おれ

日

近江の海

万葉歌集

萬葉集

あらの浦

月

は毎

おう少子の川の行と島へ経りてゆきの海と彩ん

三津乃浦泊

名

旅花の風

日

雲・櫻衣

月

あそひ音

登

あく

月

よち貝

月

ね

登

かく

月

よち貝

月

ね

登

まく

月

よち貝

月

ね

卷之三

越

卷八

或上尤

卷之三

卷之三

卷之三

2

22

三

1

二

卷之三

三

七

卷之三

卷之三

○
游

もやくやうふとつやかのめうどひちくくわく
よばてあらかとあらゆはらひゆふくらむ
てなともよはるのゆ波 一のゆふ 一の川
まくと後抄 まくとくづらひるゆかのまく
くちもひりはすあらかとくもねよすうとよ
を一のれどもみ端 一のとくとく
一のゆ尾 くじきりと おひはは 一のゆ尾
のゆ波 一のゆ ゆよたまう 一のゆ
れゆわへ 一ゆうそ たまゆ流 一のゆ

奈
稻御
まくらの滝
ふうき
・年どもる洞よみがれとひれまくらの滝異文
近江 岩
いと滝
ササ
妹背
へりせん尾
ふうき
・伊耶
岩根
いと滝
谷川古事記
奈
神
くわせ川
滝
川
・初
河内古事記
さみやの滝
義光
納須
あ葉・菊
松
ふうき
・
巖
戸と底
さみやの滝
巖川古事記
木川
木
木川
木

日
滝川古事記
とみ
絶景
滝より游
洞乃瀧
古事記
石に
ふ滝
まくらの滝のゆ
墨をく瀧
滝と
ゆまつの水の瀧古事記
滝つる
滝乃瀧
滝
のまつ不
滝つる中にも滝
神のまつりを
あくねあか
墨の滝つて滝の音
滝むき
巖
稻荷
いと滝
いと瀧
社・神
・
滝のあくねともとぬひの七日のまつりとちがん
甲佐奈表
素
いと瀧
・神のまつりを滝の音
滝むき

・吹ゆるとまのあすは山川とみがての滝乃へれども、波
 声アテ川 敷本
 ドラヘの滝 石巻とみがての滝もよしとひがへ渡りてのとせきり
 萩千鳥 沖本
 らくねの滝 沖本
 千崖 多多
 らくねの年とて絶りともやなま子れらむにひづくらの年
 布
 リー・龍門
 フミヤルの滝 からだ 五
 梅 桜 桃

アミヤルの滝をみてよしらむ

高
 チクシタニタノミナシのと行と飛ひ布さす
 布
 つまうもの滝ナリとお尋ねイキテちくまくら
 布引
 ネのひきの滝 五
 梅 桜 味を鳴 麦・アリヌ
 湘波 柏 尾花 麻 月 建
 わき 松 とよひまく ね
 白毛乃と下りる

・岩・仙人 岩本
 高
 チクシタニナシナリとお尋ね行と飛乃布さす
 桜口の下されと布引のとくにあまじこり
 フシタニナシ滝乃白玉拾ひ立くせのとくにあ
 ル
 わきあらん社有しゆめのとくも教う神のとくにあ
 いつれもかすじとく
 高
 チクシタニ音羽 柏
 ナシハの滝 と科の一・アリヌ 月 桂
 カシ
 岩本川で入へて水を滝つきふくらむのとくりすのと
 初云れ十糎のとくとくあ坂本のとく乃の滝のとく
 トとすとく

高
 チクシタニ冬のとくと年つりきよけりとくとく
 とくとく

みくさの瀧

川あらわ
里日
夜日

白川の瀧

川あらわ
里日
夜日

あら川の瀧

川あらわ
里日
夜日

白川の瀧

川あらわ
里日
夜日



